

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		平成25年7月24日					
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 宮津市鶴賀2065番地の4		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 北近畿タング鉄道株式会社 代表取締役社長 上田 清和					
主たる業種	普通鉄道事業	細分類番号	4	2	1	1	
事業者の区分	京都府地球温暖化対策条例施行規則	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号					
計画期間	平成23年4月から平成26年3月まで						
基本方針	アイドリングの停止など環境に配慮した列車運行を行う						
計画を推進するための体制	実施計画を作成し、実行する。						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量		基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率
	事業活動に伴う排出の量		7,302.4 トン	6,717.4 トン	6,675.9 トン	トン	-8.3 パーセント
	評価の対象となる排出の量		7,636.8 トン	6,717.4 トン	6,675.9 トン	トン	-12.3 パーセント
実績に対する自己評価		計画書記載の目標値を上回る温室効果ガス削減を行うことが出来た					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率
	車両	事業活動に伴う排出の量 (車両走行距離(万km))	36.51	33.58	33.38		-8.30 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント
実績に対する自己評価		計画書記載の目標値を上回る温室効果ガス削減を行うことが出来た					
重点的に実施する取組の実施状況			基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考
			0.0 パーセント	0.0 パーセント	0.0 パーセント	パーセント	
具体的な取組及び措置の内容	(23)年度		自動車交通代替として、CO2排出量の少ない鉄道利用の拡大を呼びかけた				
	(24)年度		自動車交通代替として、CO2排出量の少ない鉄道利用の拡大を呼びかけた				
	(25)年度						
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容		社員証掲示により自社線内の乗車を割引				
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価		通勤時の列車利用を促すことが出来た				
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区 分		第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考	
	森林の保全及び整備によるもの		0.0 トン	0.0 トン	トン		
	地域産木材の利用によるもの		0.0 トン	0.0 トン	トン		
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの		0.0 トン	0.0 トン	トン		
	グリーン電力証書等の購入によるもの		0.0 トン	0.0 トン	トン		
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの		0.0 トン	0.0 トン	トン		
合 計		0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	社会全体の取り組みとして、自動車交通からCO2排出量の少ない鉄道へのシフトを進めていけば、CO2排出量を削減することが出来る						
特記事項	代表者の交代による変更（平成25年6月28日付け）						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出量の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。